

国語

十一時十五分～十二時四十五分（九〇分）

注意事項

- 一、解答開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 二、問題は、□から□までの計四問です。□から□までのすべてを解答しなさい。
- 三、解答用紙は一枚で、解答欄は両面にあります。解答は、すべて解答用紙の指定欄に記入しなさい。
- 四、解答開始の合図があつた後に、必ず解答用紙に本学の受験番号を記入しなさい。
- 五、印刷不鮮明及びページの落丁・乱丁等に気づいた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 六、問題冊子の余白等は適宜利用してよい。
- 七、試験終了後、問題冊子は持ち帰りなさい。

一

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。







著作権の関係上、本文等は掲載できません。(P155)  
出典情報のみ掲載します。

出典等 .. (藤原辰史『植物考』による。出題の都合により一部改変した。)

問一

問二

問三

問四

これを読んで、後の問いに答えよ。

著作権の関係上、本文等は掲載できません。  
出典情報のみ掲載します。(P6～8)

出典等 .. (『雲隱六帖』「桜人」による。)



問五      問四      問三      問二      問一

これを読んで、後の問いに答えよ。ただし、設問の都合上、返り点・送り仮名を省略したところがある。

著作権の関係上、本文等は掲載できません。(P9510)  
出典情報のみ掲載します。

出典等 ..

(安富有恒編著『和算―岩手の現存算額のすべて』による。)

問  
三

問  
二

問  
一

四

二〇二三年の日本の合計特殊出生率は1・20となり、統計をとり始めて以降最も低くなった。少子化は国内外を問わず課題となっていることから、内閣府は五年ごとに「少子化社会に関する国際意識調査」を実施し、日本の状況を、フランス、ドイツ、スウェーデンの状況と比較している。ここでは、二〇二〇年度調査のデータに基づいて、次の資料を用意した。

資料1は「自国が子供を生み育てやすい国だと思うか」という質問に対する回答を示したグラフ、資料2は「自国が子供を生み育てやすい国だと思う理由」を示したグラフである。

これらの資料に示されたデータをもとに、後の問いに答えよ。

〔参考〕二〇二〇年の合計特殊出生率 日本1・33 フランス1・83 ドイツ1・53 スウェーデン1・67

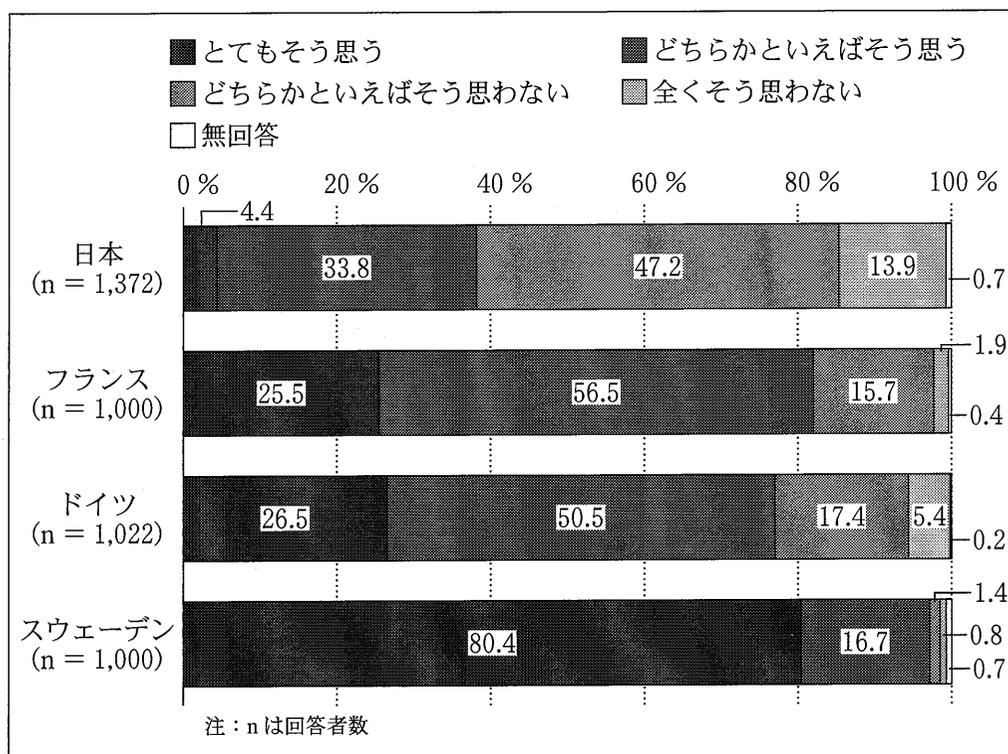
問一 資料1のデータから読み取れる日本の特徴を、他の三か国と比較して説明せよ。

問二 資料2のデータから読み取れる日本の課題を、他の三か国と比較して説明せよ。

問三 問一・問二の読み取りをふまえ、子供を生み育てやすい社会にするために、あなたは何が必要だと考えるか、二五〇字

以内で述べよ（句読点、記号等も一字に数える）。

資料1 自国が子供を産み育てやすい国だと思うか (2020年)



資料2 自国が子供を生み育てやすい国だと思う理由 (2020年)

	(%)			
	日本 (n = 525)	フランス (n = 820)	ドイツ (n = 787)	スウェーデン (n = 971)
各種の保育サービスが 充実しているから	37.9	54.4	58.4	74.5
教育費の支援、軽減があるから	39.0	51.1	39.3	84.1
妊娠から出産後までの母体医療・ 小児医療が充実しているから	46.1	56.0	58.3	71.0
公園など、子供を安心して育てら れる環境が整備されているから	32.0	45.2	52.9	57.7
雇用が安定しているから	10.3	5.6	28.2	70.1
フレックスやパートタイムなど、 柔軟な働き方ができるから	17.0	23.7	52.6	66.8
育児休業や出産休暇を取りやすい 職場環境が整備されているから	13.7	22.4	31.5	49.5
育児休業中の所得保障が 充実しているから	8.2	25.4	44.7	83.6
子育ての経済的負担が少ないから	4.8	9.0	12.1	19.2
地域の治安がいいから	52.0	28.3	32.0	34.0
親との同居、近居により 親の支援があるから	17.9	25.6	20.2	24.9
地域で子育てを助けて もらえるから	5.5	14.3	14.4	40.9
子供を生み育てることに社会全体が やさしく理解があるから	8.6	16.6	19.7	54.5
その他	3.2	0.2	0.6	0.5
無回答	0.4	0.1	0.1	0.5

注：nは回答者数

(備考) 「自国が子供を生み育てやすい国だと思うか」という質問に「とてもそう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した人による複数回答